



戸畑区

体験を通して、未来への一步を育む

- 浅生・鞘ヶ谷市民センター
- 一枝市民センター



市民センターにおける生涯学習事業

区	戸畑区	センター名	浅生・鞘ヶ谷市民センター
---	-----	-------	--------------

事業・活動名

いきいき子ども講座 若松海上保安部へ行こう

事業・活動の背景とねらい・目的

海上保安部って聞いたことはあるけれど……。警察官や消防士は、子どもまつりなどで触れ合う機会があり、パトカー、白バイ、消防車、救急車などは街で見かけること珍しくはない。それと比較して洞海湾に面している戸畑の子どもでも海上保安官と触れ合う機会はほとんどない。そのため、海を舞台に活躍する若松海上保安部の仕事を体験し、海の安全や海の環境などについて学び、海上保安部の仕事を理解することを目的とする。

取組内容

生き生き子ども講座の一環として、浅生・鞘ヶ谷市民センターの合同企画として開催。若松海上保安部を訪れ、2班に分かれ、座学と巡視艇乗船を体験。座学では、パワーポイントによる仕事内容の説明、心肺蘇生術の体験、酸素ボンベの装着など。巡視艇乗船では、門司港レトロまでの航海を体験。充実した内容に、子ども達の笑顔が満開となった。

成果・効果

浅生・鞘ヶ谷市民センターともに今回の体験をまとめた「夏休み海の新聞」を作成し、市民センターのロビーに掲示し、自分たちの体験を地域の人に紹介した。体験乗船、心肺蘇生法、酸素ボンベの着用など実感したことをまとめ、紙面からの楽しかったことが感じる事ができた。また、海での緊急通報は「118番」。将来、海上保安官が誕生するかもしれない。

今後の取組

子ども達が未来の選択肢を増やせるように様々な仕事やサービスが体験でき、仕事に対する夢が持てるような企画に取り組んでいきたい。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

子ども達に様々な体験活動を提供するためには、地域にある事業所として連携し、企画・運営する必要がある。また、洞海湾をはさむ若松区との共同での開催も検討していきたい。

活動の様子



体験乗船した「もくれん」
カッコいい！



海上保安官の話を一生懸命メモ
しています。



酸素ボンベ装着
「おもた〜い！」



心臓マッサージ
「むずかしい！」



夏休み海の新聞を市民センターに掲示し、学んだことを
地域の皆さんにお知らせしました。



地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

若松海上保安部との日程調整、巡視艇への同乗申請などの提出などの事務的業務を担当した。また、報道機関への情報提供を行うなどの広報を行った。

作成者

戸畑区地域・人づくりアドバイザー 鎌田清一

市民センターにおける生涯学習事業

区	戸畑区	センター名	一枝市民センター
---	-----	-------	----------

事業・活動名

ベビリンピック（赤ちゃん運動会）

事業・活動の背景とねらい・目的

北九州市は、令和5年11月に全国初の「こどもまんなかCity宣言」を掲げ、昨年度は、「こどもまんなかアクション」を、さらに今年度は、「北九州こどもまんなかアクションプラス+」の活動を開始している。その中で、ベビリンピックの企画や運営に校区在住の小・中学生も参画し、子どもたちに人や地域にかかわる楽しさや大切さを知ってもらうことを目的とする。

取組内容

校区の小・中学生によるボランティアグループが中心となって企画・運営を行う『ベビリンピック（あかちゃん運動会）』を昨年に引き続き開催した。当日は、お父さん・お母さんはもちろん、おじいちゃんおばあちゃんも一緒に楽しみ、子どもたちの成長を温かく見守ることができた。小・中学生が考えた「ハイハイよちよち玉転がし」や「パン食い競争」、「ファミリーゆりかご大作戦」など楽しいプログラムを実施した。

成果・効果

企画に参画した子どもたちはイベントを実施するための会議を重ねることにより、自らの意見を述べ、他人の話を聞くことにより、コミュニケーションの大切さを学ぶことができた。また、イベント当日は、赤ちゃんから地域の高麗者の方々も参加し、地域での子どもの見守り活動の重要性を再認識することができた。

今後の取組

本事業では、企画・運営に子ども達のアイデアを積極的に取り入れ、自由に提案できる土壌を築くことができた。当然、大人がサポートする部分はあったが、子ども達の力で実行できる部分を少しでも増やしていきたい。

他地域展開を見据えた視点・ポイント

本事業のように子ども達が企画・運営する体験活動は積極的・継続的に取り組むべき事業である。少子化の中、人材不足を補うためには、地域交流などの広域的な事業展開を検討していく必要がある。

活動の様子



市内の0歳から3歳までの乳幼児29人と保護者らが参加した。ハイハイの赤ちゃんやよちよち歩きの幼児が順位を競う「ハイハイよちよち玉転がし」では小学生がおもちゃを使ってゴールへ誘導。赤ちゃんはコースに置かれた筒型の障害物に四苦八苦。パン食い競争では、保護者がパンを口でくわえてゴールを目指し、「ファミリーゆりかご大作戦」では、保護者が大きなカバンで赤ちゃんを運び、赤ちゃんがボールを的にくっつけるタイムを競った。楽しいプログラムにパパ・ママはもちろん、赤ちゃんも大ハッスル。それぞれの競技では泣き出してしまう子、満面の笑顔になる子、懸命にハイハイする子の愛らしい姿に、会場は歓声と笑顔に包まれた。



地域・人づくりアドバイザー、地域・人づくり担当補佐の関わり

報道機関への情報提供を行うなどの広報を行った。
また、事業に参加し、乳幼児の奮闘する姿や小・中学生の活動状況を情報共有することが出来た。

作成者

戸畑区地域・人づくりアドバイザー 鎌田清一